

2009年7月1日

会告：企画研究小委員会の新規テーマ決定と委員募集のご案内

研究運営委員会
委員長 糸井川栄一（筑波大学）
itoigawa@sk.tsukuba.ac.jp

研究運営委員会では、2008年12月1日ならびに2009年6月3日付けの学会ホームページにより、企画研究小委員会で実施する新テーマを募集したところ、3件の応募がありました。この度、審査の結果、理事会にて採択されましたので、委員を公募します。

下記の研究テーマに興味と問題意識をお持ちの皆様は、それぞれの主査までご連絡下さるよう、よろしくお願いいたします。

記

1. 応募方法

興味と問題意識をお持ちの**研究テーマを担当する主査宛**に、下記の3に示す項目を記入の上、メールで送信してください。

2. 応募〆切

2009年7月10日(金) (必着)

3. 委員応募に当たっての記載項目

- ①氏名、②所属、③連絡先住所、④メールアドレス、⑤電話番号
- ⑥ファックス番号、⑦専門分野、⑧応募動機（小委員会で活動したい内容等）

4. 予算の使途

なお、研究運営委員には、研究テーマ毎に企画研究小委員会を設置し、各小委員会毎に10～15万円程度の研究支援予算を配分しますが、その使途としては、旅費(全体の1/2以下)の他、資料費、会合費、印刷費、調査等における車両借り上げ費等に使用可能です。

5. 委員を募集する研究テーマ

下記の3つの小委員会が実施する研究テーマ

小委員会1. 地域地震体験談活用

小委員会テーマ	地域の地震体験談を活用した多世代防災活動
主査氏名	森 伸一郎
所属	愛媛大学大学院理工学研究科
連絡先住所	790-8577 松山市文京町3
TEL	TEL 089-927-9818
FAX	FAX 089-927-9845
e-mail	mori@dpc.ehime-u.ac.jp
背景・目的	防災意識は災害体験の有無に大きく影響を受ける。しかし、災害体験の継承は、その実現に努力がなされるが容易ではない。一方、自主防災活動は、老年世代に依存して、壮年、幼少年にまで定着していない。実体験は

	聞くものに関心を呼び、身近な地域の体験はその効果が大きい。小中学生を対象に近親や地域の老年世代に体験談を聞かせることが中間世代を巻き込んだ世代間の防災活動の実質化につながる可能性があり、本小委員会ではそれを研究する。
活動計画	地域の災害体験は定住者率の高い地方ほど豊富である。活動の実体化を考えて、広域で検討できる昭和南海地震の体験談を中心的な対象として、地域の消防、自主防災会、小中学校との連携計画する。会合3回/年程度 1年目：愛媛県内市町村を対象にした体験談の活用可能性の検討。 2年目：活用の具体化、事例としてのまとめ、汎用化の検討。 3年目：他地域での可能性検討と汎用的な可能性の検討。
委員募集要件と要望	これまでに地域の地震災害体験談を収集する活動を行ってきた方、それらの活用を模索してきた方、また今後そのような予定・興味がある方であれば、建築、土木、社会学、教育学など多様な専門性を有する構成としたいと考えています。産官学問わず、参加を歓迎します。応募に当たっては、そのような背景・活動実績などを記載下さい。
募集人員（目安）	10名以下

小委員会2. 講座地域安全学出版

小委員会テーマ	『講座 地域安全学（仮称）』出版
主査氏名 所属 連絡先住所 TEL FAX e-mail	立木茂雄 同志社大学社会学部 〒602-8580 京都上京区烏丸通東入ル TEL 075-251-3451 FAX 075-251-3066 tatsuki@gold.ocn.ne.jp
背景・目的	地域安全学会は、20年以上にわたる学会活動を通じ、現在では550名以上の会員を擁し、年2回の研究発表会や日米および世界都市防災会議等で活発な意見交換を続けてきた。この間、1999年より査読誌『地域安全学会論文集』の刊行を開始し、現在までに10編の論文集を出版してきた。 そこで、これまでの20年以上にわたる学会活動、とりわけ過去10年間にわたる査読論文集の成果を踏まえ、学としての「地域安全学」の現在を俯瞰・展望し、今後の研究・実践の方向性を提言する教科書『講座 地域安全学』（仮称）の刊行を企画するに至った。
活動計画（2年分）	本講座の企画・刊行を担当する出版委員会を組織する。出版委員会の委員は、10名程度とする。初年度は、過去10年間にわたり出版された地域安全学会論文集に収録された全論文を対象に、キーワード・著者・タイトルに対してテキスト・マイニングを行い、刊行された論文の実証的な分類を行い、主要クラスターごとに担当編集委員を決め、文献展望と重要な成果を特定する。また、今後の研究・実践の方向性についてクラスターごとに執筆者選定・原稿依頼を行う。次年度には、提出された原稿を委員会全体で検討し、編集作業を行い成果物として漸次『講座 地域安全学（仮称）』を刊行していく。
委員募集要件と要望	土木、建築、まちづくり、社会学、政策科学等、多様な専門性を有する構成としたいと考えています。産学問わず、参加を歓迎します。応募人数が多い場合、大変恐縮ですが、選定させていただきます。
募集人員（目安）	10名以下

小委員会3. 大型行事の安全マネジメント

小委員会テーマ	突発事態を考慮した大型行事の総合安全対策に関する研究
主査 氏名 所属 連絡先住所 TEL FAX e-mail	大西一嘉 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 TEL 078-803-6004 FAX 078-861-0004 ohnishi@kobe-u.ac.jp
背景・目的	<p>五輪招致を始め様々な目的で世界各地で開催される大規模集客を伴う大型行事において、円滑な群集制御は重要な課題と認識されている。一方、国際テロ、無差別殺傷、地震災害等想定外の突発事態も考慮した視点で計画の妥当性を検証する研究はみあたらず、現場では経験則にもとづく雑踏対策に取り組むだけで常に危険と背中合わせの状況が一向に改善されておらず、ノウハウの体系化や共有化が防災研究の一環として取り上げられる事もない。この事から大型行事安全対策の合理性、適切性を評価し、想定外の突発事態にも備える総合的な防災安全マネジメント研究の議論の場として、今後本学会は重要な役割を担うことが期待される。当委員会では、過去の雑踏対策事例をふまえて低頻度大事故リスクをコスト面からも再検証しつつ、想定外シナリオの記述を行なう。今後国際的にも高まるであろう大型行事の総合防災安全面からの事前評価に対するニーズを明らかにし、当該研究分野を学会の研究対象として位置付けてその裾野を広げるとともに、学会の発展に寄与する事を目的とする。</p>
活動計画（3年分）	<p>①雑踏事故やヒヤリハット事例収集と事故発展可能性の議論（危険評価の視点再整理、安全対策の目標設定） ②各種想定外の突発事態へのシナリオ記述と警備組織、法制度面の検討 ③適正な対策のあり方を議論し地域安全研究としてのフレームの提示（学会論文として投稿準備）</p>
委員募集要件と要望	<p>既成の分野にとらわれない幅広い視点から議論を行いたいと考えています。建築、都市計画、交通計画、警察、医学、心理学、社会情報、法学、リスクマネジメント、群集避難、地震直前予知、防災教育、国際協力等、多様な専門性を有する方を産官学問わず歓迎します。応募人数が多い場合、大変恐縮ですが、選定させていただきます。</p>
募集人員(目安)	10名以下